



三五の森づくり 植樹レポート



Vol.04

2020年7月号

今年も東日本大震災復興支援のために苗木を出荷しました。

三五は東日本大震災復興として毎年、海岸沿いに森の防潮堤をつくっている宮城県岩沼市に苗木を送っています。宮城県で採った種をいただいて、各工場では2年程度育てて苗木にして出荷します。今年は新型コロナウイルスの影響で被災地の植樹祭は延期となってしまいましたが、三五から158本を出荷し、地元の方に植えていただきました。

2013年から続くこの活動は送付累計本数21,670本に達しました。私たちが育て、植えた被災地の苗木は大きな森になりつつあります。この森が津波の威力を減衰させ、多くのいのちを救う防潮堤となることを願っています。

植栽から1年
2014年6月



7年後
2020年6月



大きく育った苗木を袋詰め



森の防潮堤だ
ケロ



2020年までの累計出荷本：21,670本

現在の累計植樹本数
288,952本



ちょっと一言

三五がなぜ森づくりをしているか、皆さんはご存じでしょうか？

今、地球環境は悪化の一途をたどるばかりです。しかし三五が植える苗木一本が、CO₂を吸収固定し酸素を出し、三五が育てる苗木1本が森の防潮堤の一部になります。つまり人間のいのちを守る環境のひとつになっています。いのちと密接に関わっている森づくりを企業活動を通して行う三五。環境づくりの理念は、従業員ひとりひとりのいのちを守る活動としてご理解いただけたらと思います。

三五の森づくり



森の様子の変フォーアフター

三五グループは全社で森づくりを展開してきました。今回は3つの事業体の様子をご紹介します。

ASIは毎年豪華な植樹祭イベントを開催し、今では森も豪華になりました。今年はイベントは自粛し、業者さんに植樹をしてもらいました。GSCは温暖な気候で日本の倍近いスピードで森になっていきます。いなべ工場はシカの食害にあいながらも立派な森に成長しています。

それぞれ土壌も気候も植栽樹種も異なりますが、森になったことは共通です。森にはたくさんの生物が飛来し、多くの二酸化炭素を固定します。従業員の皆さんに癒しをもたらしています。各事業体の森が大きく育って鳥が来るのを見ると、三五の森づくりは生物多様性に寄与しているということが実感できますね。



ASI 2014年植樹祭



GSC 2013年植樹祭



いなべ工場 2015年植樹祭



2020年6月



2020年4月



2020年5月

森のCO₂吸収固定ってなんだ？

三五の森は309 tのCO₂を固定していると試算しています。これは木が大気中から二酸化炭素を吸い込んで、セルロースの形で根や幹や枝として存在していることを表しています。根や幹や枝の乾燥重量の50%が炭素(C)と言われています。つまり二酸化炭素は木そのものになるということ。森を増やすことはCO₂を減らす最善策なのです。

今回の事務局紹介

豊田技術センター 蔦谷さん

自然と共生する技術センターを目指し日々頑張っています



蔦谷健一さん

蔦谷さんからイヤだとかできないという言葉聞いたことがありません。とても真面目で仕事熱心。時に冗談を言い、周囲を笑わせるセンスも抜群です。ペットのポメラニアンをこよなく愛するおちゃめな一面もある蔦谷さんです。